

---

# 主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

ジュラルミンダンボール

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

### 【Nコード】

N9235Z

### 【作者名】

ジュラルミンダンボール

### 【あらすじ】

ジュラルミンダンボール は とちくるった ！！

## （前書き）

ウチの主役三人組にちよつと集まって喋つて貰いました。想像以上のグダグダ感と、想像以上の短さです。議題は、『今年の反省と来年の抱負』です。ちなみに、色々とメツタメタなので、色々ご注意ください。

ちなみに、今回はこれまでとは全く違う形式です。

ライア「さて、今年の反省と来年の抱負を語ろつか。んじゃ、まずはアタシから！」

リア「あらあら、ライアさんってばせっかちさんなのね。」

祐「それで、何なんですか？ いや、この会合自体そもそもが一体何だっって言っんですか？」

ライア「あれれ？ 祐ちゃんには言ってなかったっけ？」

祐「ええ。空間の裂け目から突然現れた触手に拉致されて、至る現在です。」

リア「あらあら。」

祐「あらあら、じゃ無くて・・・とかく！ 何なんです？！ このコタツとミカンとブラウン管テレビとホワイトボードとホットカーペットの配置された六畳間は！？」

ライア「ん？ ジュラダンくんのお家だけど？」

祐「え？」

リア「あら？」

ライア「うん、『冗談。』」

祐「話をこじらせないでくださいよ。それで、ここは一体？」

ライア「ん、メンドクサイから簡単に説明すると、メタ空間ってヤツかな。」

リア「だからここでの出来事は本編には一切合切関係無くいれるから。ゆつくりしていつてね？」

祐「あ、そうなんですか。それにしてもメタ空間って・・・もっとマトモなネーミングを・・・」

ライア「それじゃ！ 今年の反省と来年の抱負を語ろう！」

祐「ちょ！？ 軽く流さないでくださいよ！」

リア「あらあら。」

ライア「まずアタシの今年の反省！ ジュラダンくん、とつと続き書け！ 来年の抱負は、ジュラダンくん、とつと続き書けって事で！」

祐「いや、それじゃ反省にも抱負にもなっていないような・・・」

リア「それどころかジュラルミンダンボール君はこれから完全オリジナルの話を書こうとしてるらしいから、ライアさんの所は更に続きが書かれなくなるかもしれないわね。」

ライア「ウソ！？ え、ちょ、それ何処情報！？ ソース寄越せソース！！」

リア「リリイさんとニッフルちゃんが言ってたので、多分間違い無いと思いますよ〜?」

ライア「うそぉん・・・」

祐「次はどっちが言います?」

リア「祐ちゃんからどうぞ〜?」

祐「それじゃ、私が。え〜、今年はレベル5になったり両手両脚がジューズになつて無くなったりとか色々ありましたが、正直、レベル5らしい事をほばしてないので、来年は、レベル5らしい事をしたいです!」

ライア「ふ〜ん。ねえねえ、例えばどんなん?」

祐「そうですね・・・中国を地震で完膚なきまでに壊したり、とか?」

リア「あらあら〜。」

ライア「ちょ、ま、いやそれは色々とマズイっしょ・・・。」

祐「やつぱり・・・駄目、ですかね?」

ライア「一応あんたんとこ、原作アニメ版の裏側で同時進行で動いてるって設定があるし、原作ブレイクはやらない方が・・・」

祐「じゃあ、何しましょうか? う〜ん・・・あ、そうだ。」

リア「あらゝ。」

ライア「また強烈に嫌な予感しかないなあゝ、この娘っ子は。」

祐「じゃ、一方通行を倒して来ましょう。」

ライア「アウト！それは絶対にアウト！！原作ブレイクなんてヤワな表現じゃ済まないって実際！」

祐「えゝゝゝだつて、机上論の上なら勝てるって、師岡先生言つてましたしゝゝゝ」

ライア「それでも！むしろ机上論だけに抑えてた方が『らしい』つしょ！！？」

祐「でもゝゝゝ」

リア「あらあらゝ。でも、それぐらいやった方が、祐ちゃんらしくて可愛いんじゃないかしらゝ？」

ライア「ちょ、リア！？」

祐「可愛いって、言うのは、ちょっとゝゝゝと、ともかく、来年こそはレベル5らしい事をします！きつと！」

リア「あらあらゝ。頑張つてねゝ？」

祐「はい！それで、えーっとゝゝゝ最後は、リアさんですけど？」

リア「そうねゝ、私はゝゝゝうゝん、考えて無かつたわゝゝゝ。

」

ライア「考えて無いのかい！ と、ともかく何でも良いから言わないと！」

リア「そうね〜・・・あ、そう言えば、デボエンペラーさんの所に出張に行く事があって、その時に向こうの主人公のギユスターブさんと知り合ってたね？」

祐「ええ、あの人ですね。あの、何か色んなカードを具現化して戦ってる。あれってちよつと懂れますよね。」

ライア「そうねえ。正直、アタシん所ならそう言う類いのVRMMOとか探せば、案外出来るかもだけどねー。」

リア「そのギユスターブさんが、凄くカッコ良くて。」

祐「あれ、リアさん？ 何か顔、赤くなってません？」

ライア「おー、ホントだホントだ。死体みたいに真っ白だから余計目立つね！」

リア「今度、ウチに来て貰いたいかな〜、って〜・・・。」

ライア「あんた、その人に惚れてるね？」

リア「ええ〜、実は〜・・・。」

祐「（ゴクリ）」



リア「凄く・・・美味しそうだなって・・・」

ライア「そっち!!? ああそっちか!! 何だビックリした、そっちい?! 全く、ホントに期待したアタシが馬鹿だったよホント!

リア「でも、凄く美味しそうなんですよ? あの強い意志を感じる瞳とか、もう・・・ゴクッ」

ライア「ほらほら、その涎拭いて拭いて! 一応女の子なんだから! で、それで? ジュラダンくんは競演の為のラブコールとかデボエンペさんにしてんの?」

祐「その誰でも長いと略すクセ、何とかしませんか?」

ライア「しいゝなあゝいいゝ。(ドヤァン)」

祐「・・・(スッ)」

ライア「やめて! 衝撃波は! 衝撃波だけはやめて!!」

リア「ジュラルミンダンボール君はそんなにアグレッシブな子じゃないですし、やってないみたいですよ?」

ライア「へー。でも実際、アイツの執筆能力で人様のキャラクターを差し込む余地とかあるの?」

リア「番外編は先客が多いですからね。洋ゲーとガンシューの。でも強引に開けてでも入れたいとは言ってましたけどね?」

祐「何で洋ゲーとガンシューばかりあんなに集めたんでしょうね。」

そのくせ、ギアーズオブウォーとかタイムクライシスとかはありま  
せんし。」

ライア「趣味なんじゃ無いのー？ アタシは興味無いからその話は  
乗らなーい。」

リア「あらゝ、そう言えばライアさんは第一回B o Bでアメリカの  
方に・・・」

ライア「あぁんもうホント腹立つ！ 今思い出してもムカつくあ  
のクソメリケン！！ 結局アイツがした事なんて単なる漁夫の利な  
のよ！！？ 大半を殺したのはアタシなのに！ キー！」

祐「ライアさんが個人的感情をアメリカの方に持っているのは分か  
りましたけど・・・ゲームに罪は、ありませんからね？」

ライア「何よ！あんだだってP 4 Aの主人公と名前がダダ被りのク  
セに！」

祐「な！ 下の名前だけですし、漢字も違いますよ！！ ダダ被っ  
てはいません！！ それに、名前の発表は私の方が先です！ あな  
たこそ、ライア総裁と名前モロ被りじゃないですか！」

ライア「うつさいやい！ ジュラダンくんが決めた後に気付いた事  
を言うなー！！」

リア「あらあらゝ。收拾が付かなくなってきましたねゝ。それでは、  
この辺でゝ。えいつ！」

ライア「うにゃ！？」

祐「きゃあ!？」

リア「・・・さてさて、二人はちゃんと元の場所に戻れたでしょうし。それでは私もそろそろお暇させて貰いましょうか。ではまた本編で。」

（後書き）

さてさて、こんな所で今回の漫談は終了とさせて頂きます。何かございましたら、感想等を送りつけて頂けるとありがたいです。ではまた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9235z/>

---

主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

2011年12月28日22時53分発行